

太平洋クロマグロ2015年生まれの加入量水準速報(2016年5月)について

太平洋クロマグロ2015年生まれの加入量水準速報(2016年5月・第3段階)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(注1)に基づき、国立研究開発法人水産研究・教育機構(注2)と協力し、太平洋クロマグロの加入(注3)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年から、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、モニタリングデータを順次追加しながら、概ね10月、12月、翌年5月、及び翌年10月頃を目途にした4段階で、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています。今回は、2015年生まれについての第3段階の速報です。

(注1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(注2)2016年4月に国立研究開発法人水産総合研究センターから改組。

(注3)生まれた個体が成長、生残して新たに漁業の対象に加わること。太平洋クロマグロでは、ふ化後2～3ヶ月、体長20cm程度から漁業の対象となる。

1. 2016年5月時点の推定加入量水準

「2015年の加入量水準は、過去4年間の平均付近で、2014年を上回る可能性が高い。」

詳しい内容については国立研究開発法人水産研究・教育機構作成の添付資料を御覧ください。

なお、2015年生まれの次回の速報(第4段階(最終))は本年10月頃を予定しています。

<添付資料>

[・太平洋クロマグロ2015年生まれ加入量モニタリング速報\(第3段階 2016年5月\)](#)

2. 参考

平成27年10月28日付けプレスリリース「太平洋クロマグロ2014年及び2015年生まれの加入量水準情報(2015年10月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/151028.html>

平成27年12月21日付けプレスリリース「太平洋クロマグロ2015年生まれの加入量水準速報(2015年12月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/151221.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課

担当者: 国際資源班 川端、河上、井ノ口

代表: 03-3502-8111(内線6803)

ダイヤルイン: 03-6744-2380

FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)

国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

くろまぐろ資源部 島田、境、鈴木

電話: 054-336-6032

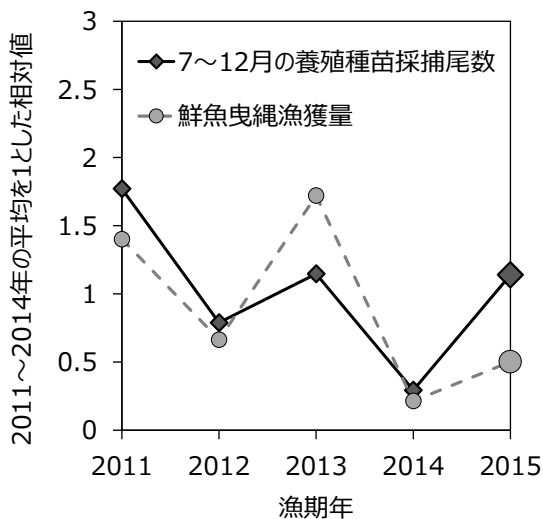
太平洋クロマグロ 2015年生まれ 加入量モニタリング速報 (第3段階 2016年5月)

国立研究開発法人

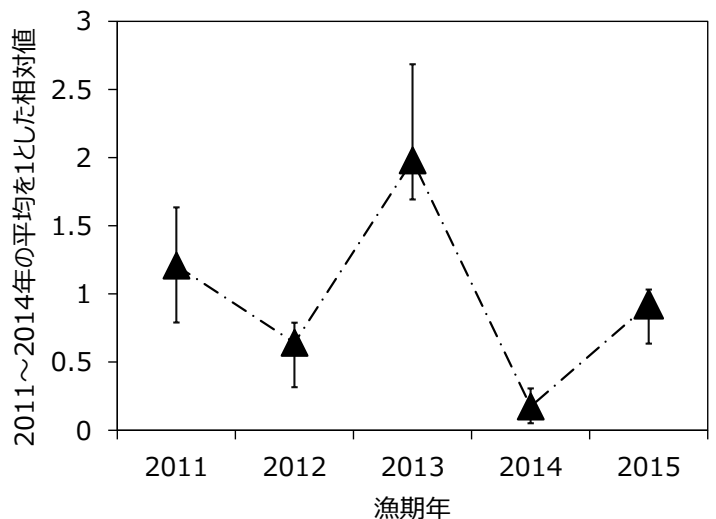
水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

- 日本全国で曳縄漁船によって漁獲された①養殖用種苗の活込尾数(2015年7～12月)と、②鮮魚用途の漁獲量(2015年10月～2016年3月)から、2015年漁期の漁獲状況を分析(南西諸島海域・日本海の両産卵場の生まれ群を漁獲: 左下図);
 - ① 養殖用種苗活込尾数は、過去4年間(2011～2014年。以下同じ)の平均の114%、前年の3.9倍。(注)
 - ② 鮮魚用途の漁獲量は、過去4年間の平均の50%、前年の2.3倍。
- 九州西側での曳縄モニタリング船の2015年11月～2016年2月におけるCPUE(漁獲努力量あたりの漁獲尾数)を2015年生まれ群の加入指標として分析(南西諸島海域・日本海の両産卵場の生まれ群を反映: 右下図);
 - 2015年生まれ群のCPUEは、過去4年間の平均の92%、前年の5.3倍。
- 上記から、2015年の加入量水準は、過去4年間の平均付近で、2014年を上回る可能性が高い。

注: 養殖用の天然種苗に関しては、各県の一年当たりの活込尾数が2011年から増加することを防ぐため、2012年10月26日に農林水産大臣指示を発出。



左図. 曳縄漁船による7～12月の養殖用種苗の活込尾数と10月～翌年3月の鮮魚漁獲量。



右図. 曳縄モニタリング船による11月～翌年2月の九州西側でのCPUE。図中の垂線は95%信頼区間を示す。

太平洋クロマグロ2014年及び2015年生まれの加入量水準情報(2015年10月)について

太平洋クロマグロの加入量水準について、2014年生まれの情報(第4段階(最終))及び2015年生まれの速報(第1段階)について公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、国立研究開発法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年から、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、モニタリングデータを順次追加しながら、概ね9月(2015年以降は10月)、12月、翌年5月、及び翌年10月頃を目途にした4段階で、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています(※3)。今回は、2014年生まれについての第4段階の情報及び2015年生まれについての第1段階の速報です。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)生まれた個体が成長、生残して新たに漁業の対象に加わること。太平洋クロマグロでは、ふ化後2～3ヶ月、体長20 cm程度から漁業の対象となる。

(※3)太平洋クロマグロの加入量情報更新の流れについては、添付資料を御覧ください。

1. 2015年10月時点の推定加入量水準

「2014年生まれの加入量水準は、低位の可能性が高い。」

「2015年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、低いものの2014年を上回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付資料を御覧ください。

なお、2015年生まれの次回の速報は本年12月頃を予定しています。

<添付資料>

[・太平洋クロマグロ\(20xx年生まれ\)の加入量情報更新の流れ](#)

[・太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング情報\(第4段階 2015年10月\)](#)

[・太平洋クロマグロ2015年生まれ 加入量モニタリング速報\(第1段階 2015年10月\)](#)

2. 参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

平成26年12月18日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/141218.html>

平成27年5月21日付けプレスリリース「太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/150521.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 川端、難波
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)

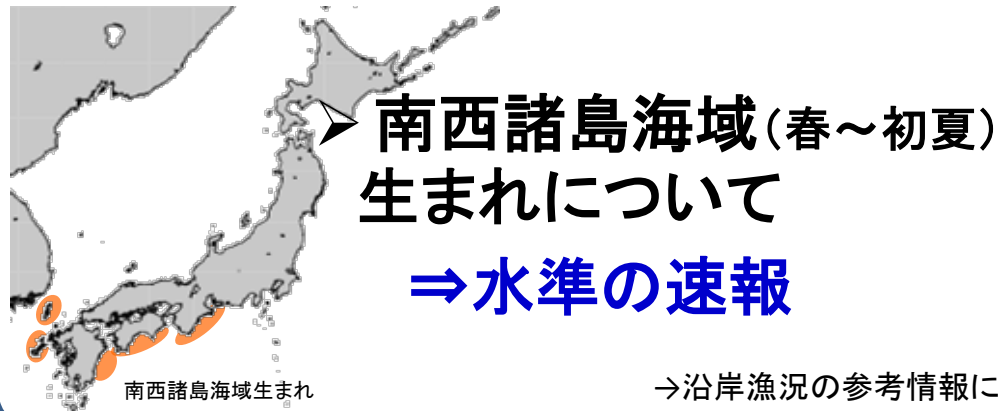
国立研究開発法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島、境
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロ(20xx年生まれ)の加入量情報更新の流れ

第1段階

夏季曳縄漁船CPUE

20xx年9・10月 (長崎・宮崎・高知・和歌山・三重)



第2段階

秋季曳縄漁船CPUE(島根)

夏季養殖種苗活込尾数

20xx年12月



第3段階

冬季曳縄漁船CPUE

養殖種苗活込尾数

全国曳縄漁獲量

20xx+1年5月

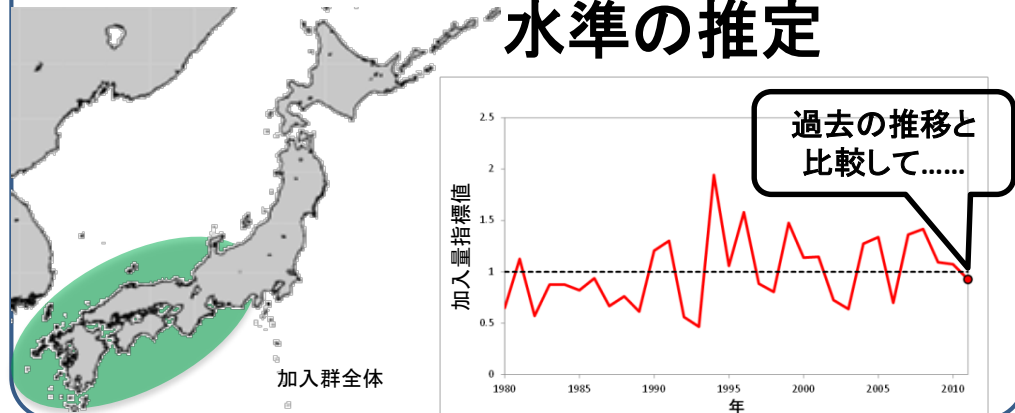


第4段階

長期加入量指標

20xx+1年10月

➤ 長期データに基づく水準の推定



モニタリングで得られるデータに応じて4段階で加入量水準に関する情報を公表

太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング情報 (第4段階 2015年10月)

国立研究開発法人

水産総合研究センター 国際水産資源研究所

- 資源評価に使用している、1980年からの各年漁期(7月から翌年6月)の曳縄漁船の小型魚CPUE(漁獲努力量あたり漁獲量)^{※1}を長期加入量指標として分析した。
- これに基づけば、2014年生まれの加入量水準は、低位の可能性が高い。

(※1) 加入量の値は、資源評価において、本加入量指標のほかに、他の漁業データも合わせて総合的に分析され、確定される。

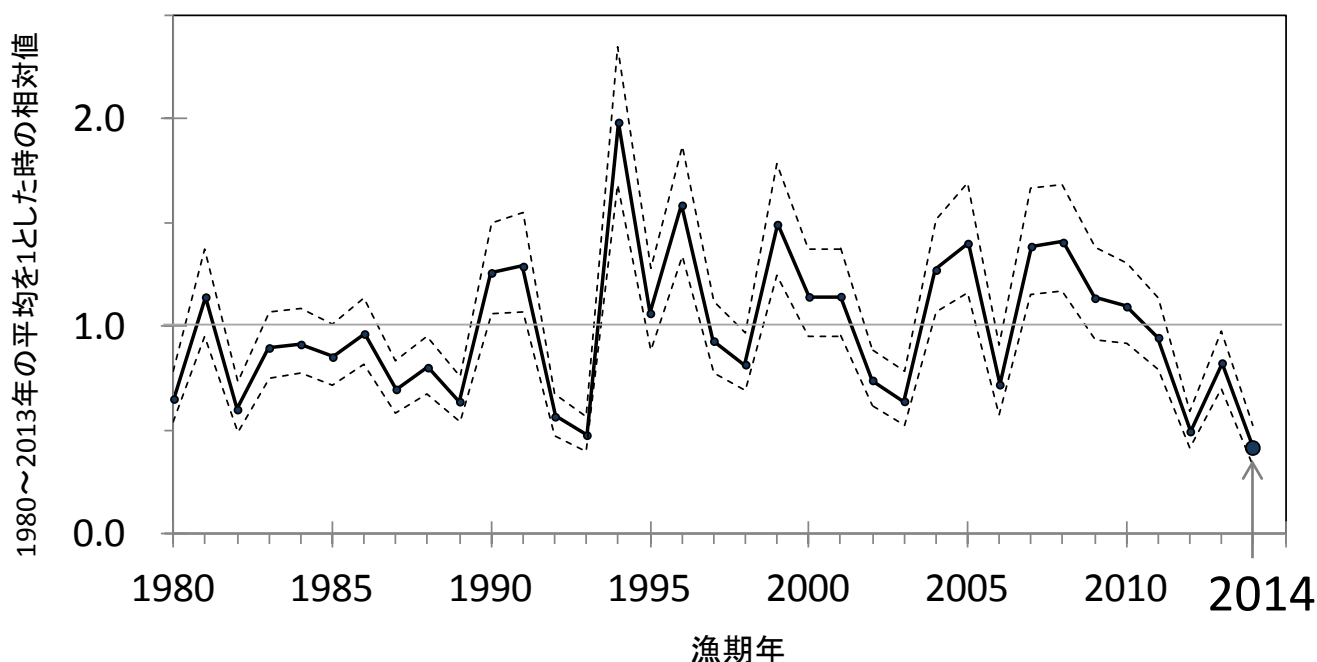


図. 1980~2014年の長期加入量指標(曳縄CPUE)の相対値.

図中の点線は90%信頼区間を示す.

太平洋クロマグロ2015年生まれ 加入量モニタリング速報 (第1段階 2015年10月)

国立研究開発法人

水産総合研究センター 国際水産資源研究所

- 太平洋南及び九州西※¹に設定した曳縄モニタリング船※²の夏季(7~8月)のCPUE(漁獲努力量あたり漁獲尾数)を加入動向の指標(南西諸島海域生まれと推定)として分析。
- 2015年における夏季の曳縄モニタリング船CPUEは、2011~2014年平均の78%、前年比155%。
- 上記から、2015年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、低いものの2014年を上回る可能性が高い。

(※1)太平洋南は、宮崎県、高知県、和歌山県、三重県。九州西は、長崎県。

(※2)2011年からモニタリングを開始。51隻のヨコワ曳縄漁船を対象としている。

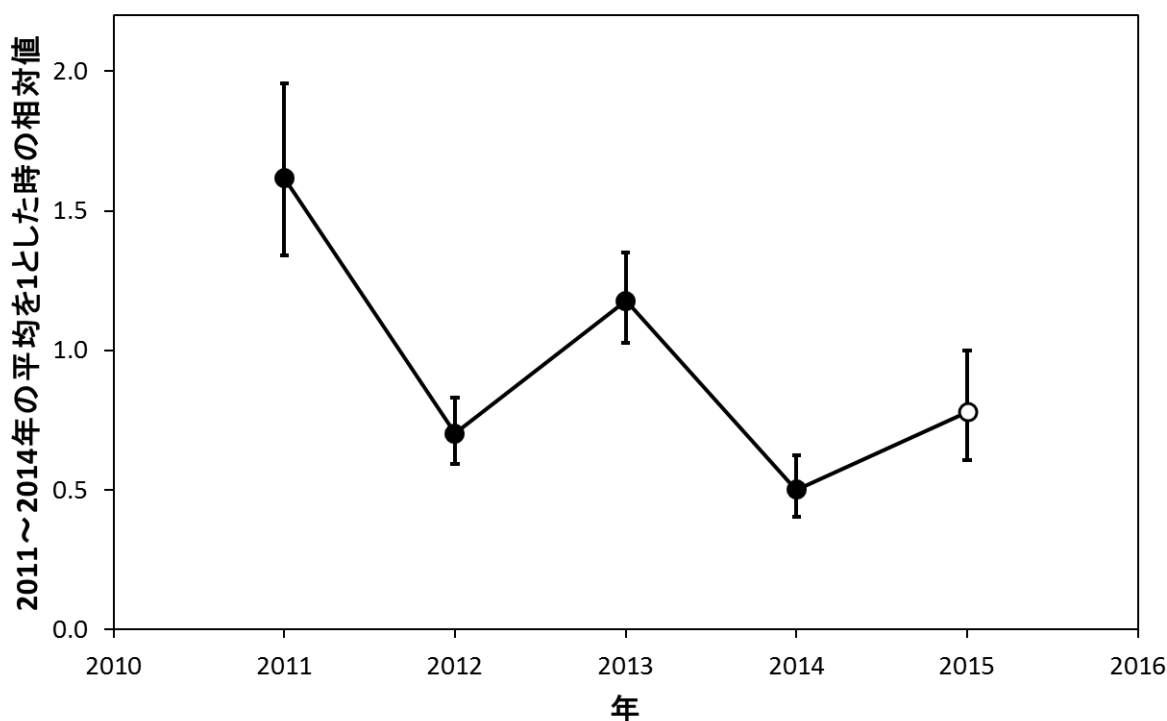


図. 2011~2015年の夏季の曳縄モニタリング船CPUEの相対値.
図中の垂線は95%信頼区間.

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

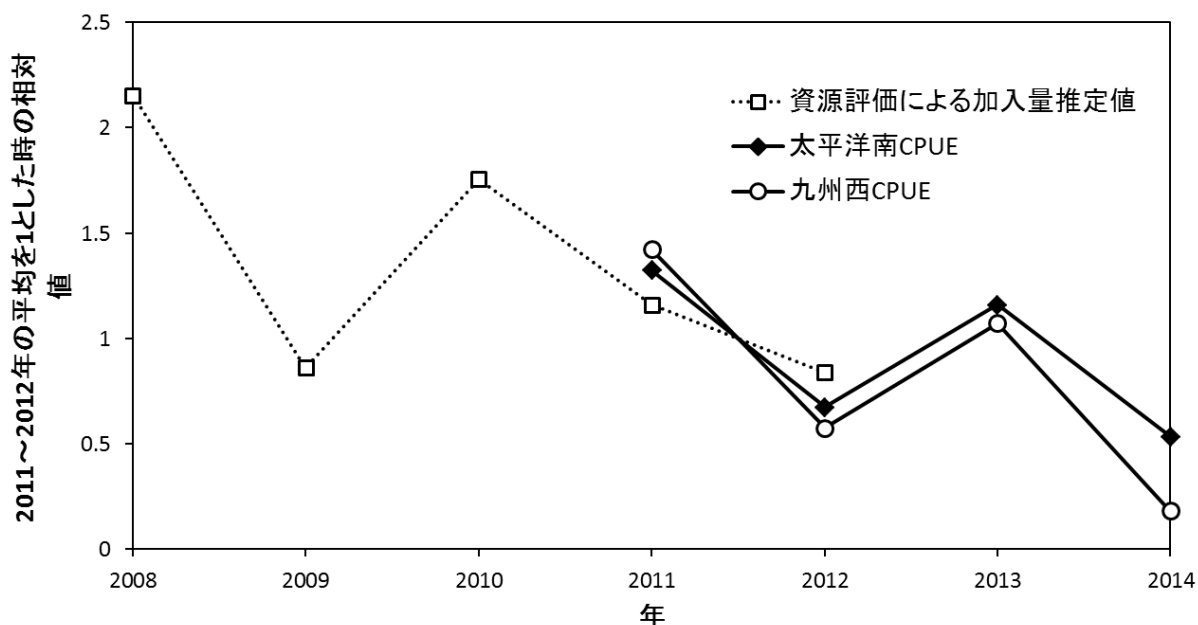


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年3月、翌年10月の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること

1.2014年12月時点の予測

「2014年生まれの加入量水準は、全体として、2012年を下回る低水準である可能性が高い。

(1) 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。

(2) 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は来年3月末を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ加入量モニタリング速報\(2014年12月\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 西田、井須
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

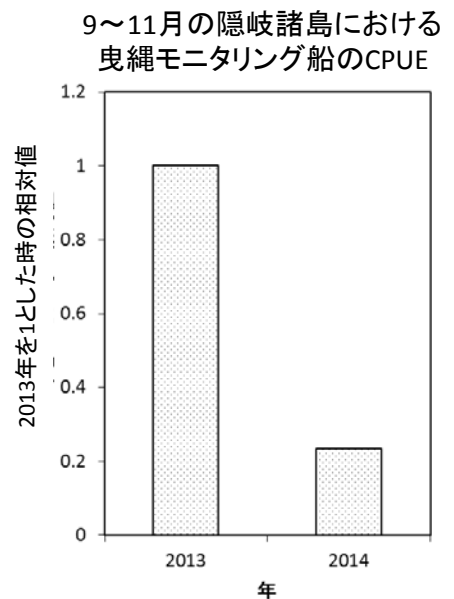
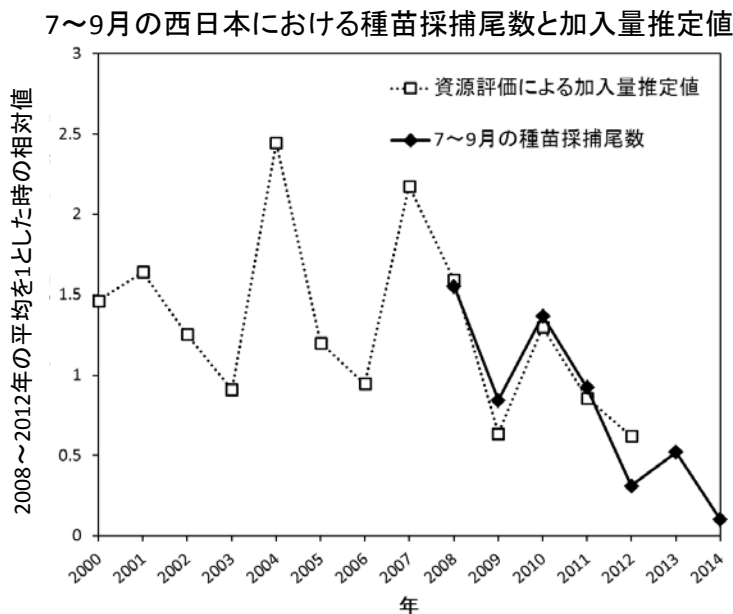
太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報(2014年12月)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 前回の速報(9月30日公表)に用いた調査^(注1)結果に加え、新たに本年①7～9月の西日本における曳縄漁船による養殖種苗採捕尾数(南西諸島海域生まれと推定:主に高知・長崎等で採捕)、及び、②島根県隠岐諸島における養殖用種苗採捕の曳縄モニタリング船の9～11月の採捕状況(日本海生まれと推定)の調査^(注2)結果を加えて加入状況を推定。
- 西日本の養殖用種苗採捕尾数(左下図)は、2013年の20%、2012年の33%。
- 隠岐諸島における曳縄モニタリング船の漁獲努力量当たり採捕状況(CPUE:右下図)は、2013年の23%。

注1: 太平洋南部(宮崎・高知・和歌山・三重)及び九州西部(長崎)での、養殖用種苗採捕の曳縄漁船のモニタリング調査

注2: 島根県隠岐諸島におけるモニタリング調査は2013年から開始



● 上記から、以下の可能性が高い

- 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る。
- 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る。
- 全体として、今年の加入量水準は2012年を下回る低水準。

● 次回の速報は、3月末に公表の予定。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

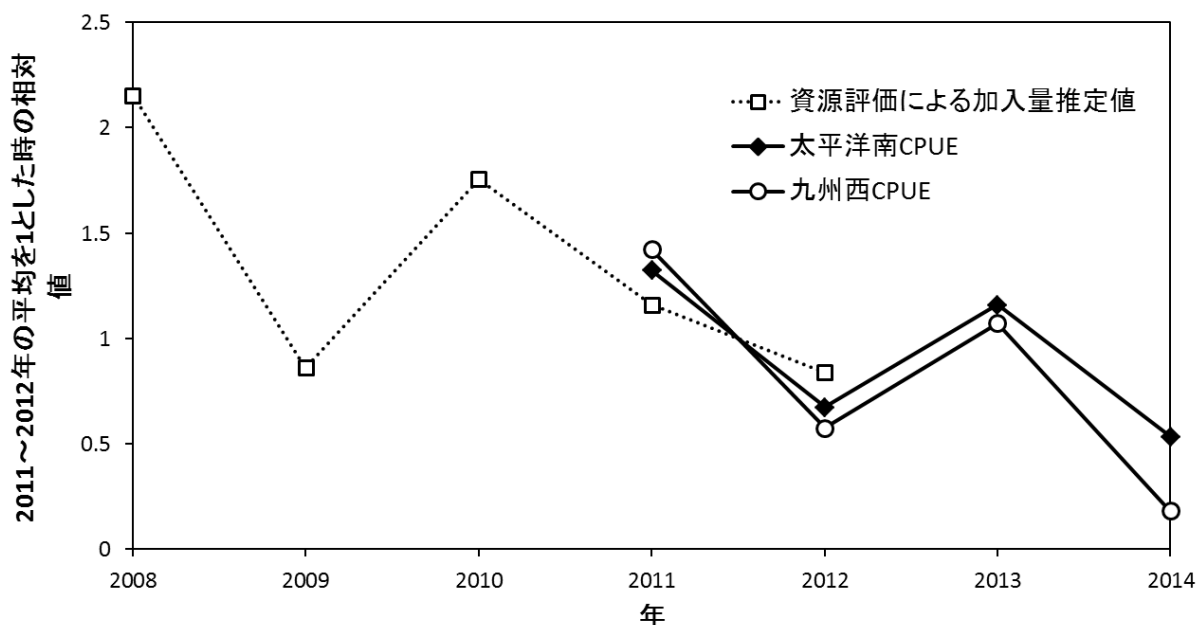


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。

太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)について

太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、国立研究開発法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年5月(今回、※3)及び翌年10月の計4回、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長、生残して漁業の対象に加わること

(※3)当初、3月の公表を予定していましたが、データの収集に時間を要するため、5月に変更

1.2015年5月時点の推定加入量水準

「2014年生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る低水準である可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付資料を御覧ください。
なお、次回の速報は本年10月を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報\(2015年5月\)\(PDF:45KB\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

平成26年12月18日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について」
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/141218.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 川端、難波
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

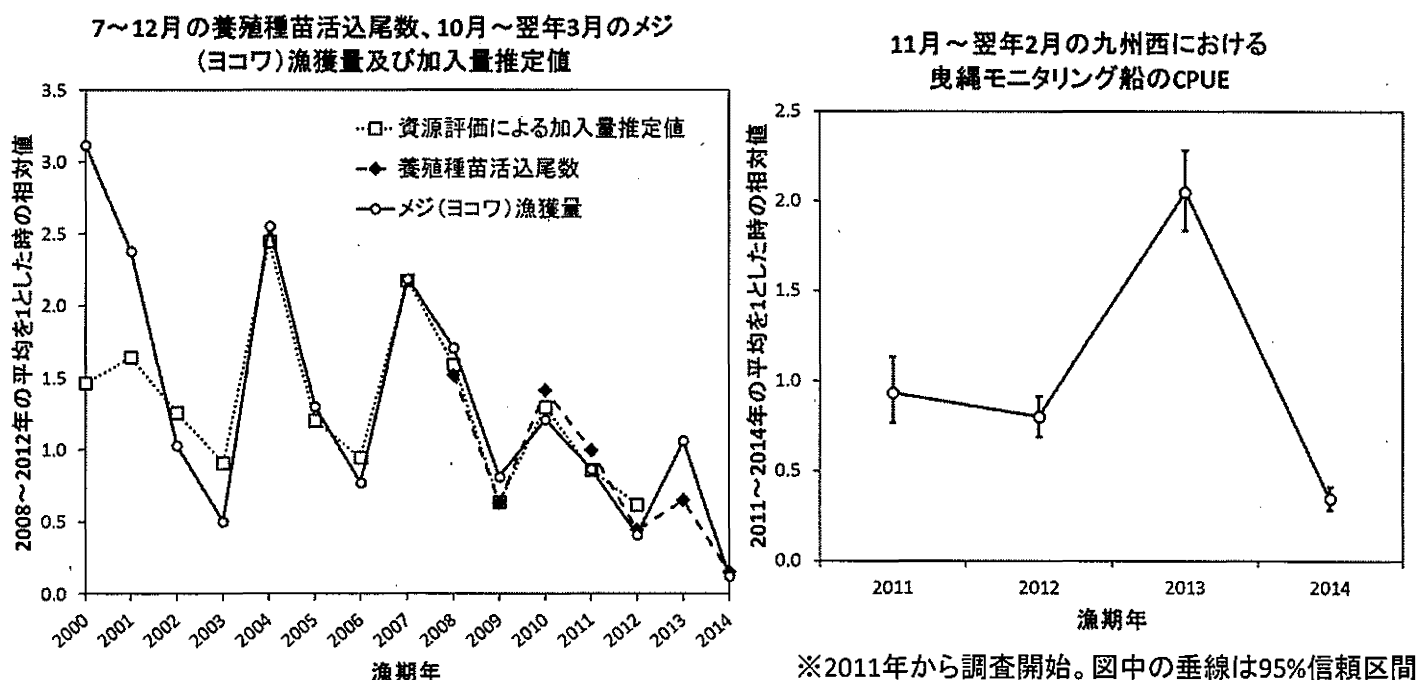
(具体的な内容について)
国立研究開発法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報(2015年5月)

国立研究開発法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 過去2回の速報(2014年9月30日、同年12月18日公表)の結果に加え、新たに以下を加えて2014年漁期^(注1)の加入状況を推定。
 - 2014年7～12月の西日本で曳縄漁船によって漁獲された養殖種苗の活込尾数
 - 2014年10月～2015年3月の日本全国の曳縄漁船によるメジ(ヨコワ)漁獲量(鮮魚用途の漁獲)
 - 九州西での曳縄モニタリング船の2014年11月～2015年2月における漁獲状況
- ※①～③はいずれも南西諸島海域生まれと日本海生まれの両方を対象とする
- 西日本における養殖種苗活込尾数(左下図)は、2013年の23%、2012年の34%。
- 日本全国のメジ(ヨコワ)漁獲量(左下図)は、2013年の12%、2012年の31%。
- 九州西における曳縄モニタリング船の漁獲努力量当たりの漁獲尾数(CPUE:右下図)は、2013年の17%、2012年の43%。

注1: 漁期は、7月1日～翌年6月30日



上記から、2014年の加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る低水準である可能性が高い。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

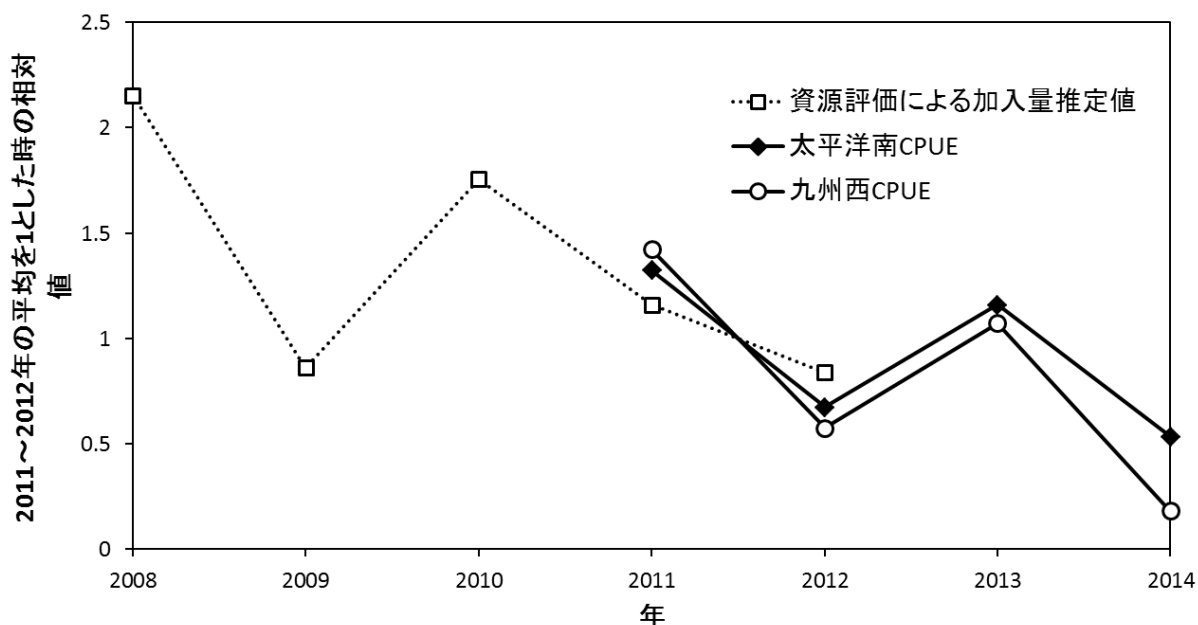


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年3月、翌年10月の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること

1.2014年12月時点の予測

「2014年生まれの加入量水準は、全体として、2012年を下回る低水準である可能性が高い。

(1) 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。

(2) 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は来年3月末を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ加入量モニタリング速報\(2014年12月\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 西田、井須
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

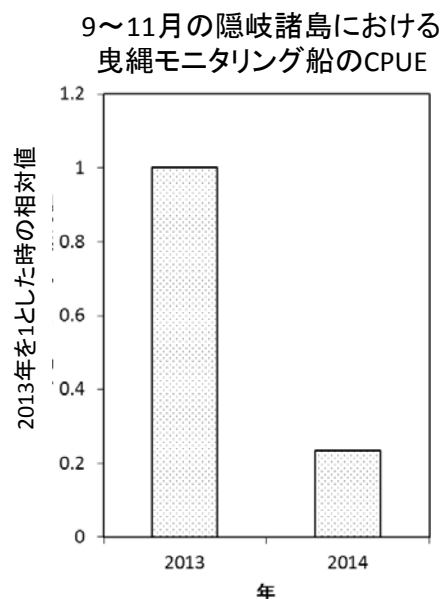
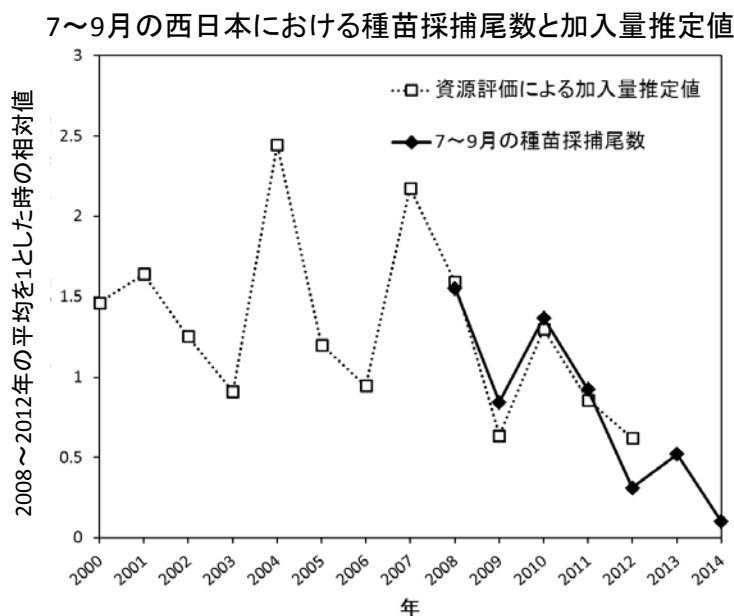
太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報(2014年12月)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 前回の速報(9月30日公表)に用いた調査^(注1)結果に加え、新たに本年①7～9月の西日本における曳縄漁船による養殖種苗採捕尾数(南西諸島海域生まれと推定: 主に高知・長崎等で採捕)、及び、②島根県隠岐諸島における養殖用種苗採捕の曳縄モニタリング船の9～11月の採捕状況(日本海生まれと推定)の調査^(注2)結果を加えて加入状況を推定。
- 西日本の養殖用種苗採捕尾数(左下図)は、2013年の20%、2012年の33%。
- 隠岐諸島における曳縄モニタリング船の漁獲努力量当たり採捕状況(CPUE: 右下図)は、2013年の23%。

注1: 太平洋南部(宮崎・高知・和歌山・三重)及び九州西部(長崎)での、養殖用種苗採捕の曳縄漁船のモニタリング調査

注2: 島根県隠岐諸島におけるモニタリング調査は2013年から開始



● 上記から、以下の可能性が高い

- 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る。
- 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る。
- 全体として、今年の加入量水準は2012年を下回る低水準。

● 次回の速報は、3月末に公表の予定。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課

担当者: 国際資源班 西田、井須

代表: 03-3502-8111(内線6803)

ダイヤルイン: 03-6744-2380

FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)

独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所

くろまぐろ資源部 島田、大島

電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

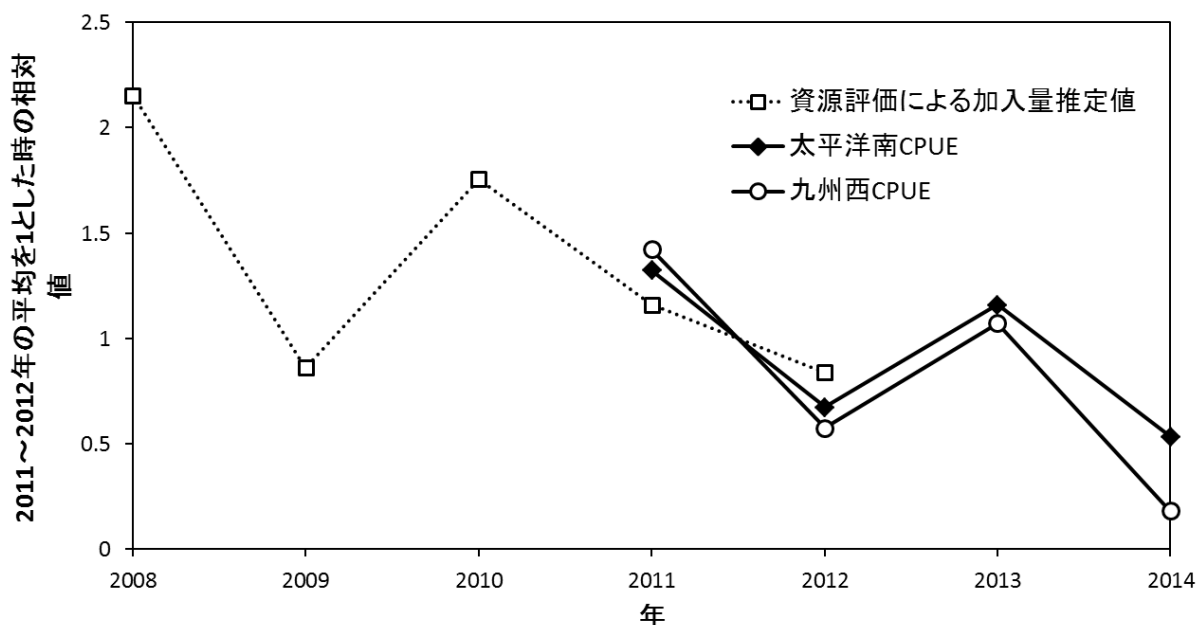


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。

太平洋クロマグロ2015年生まれの加入量水準速報(2015年12月)について

太平洋クロマグロ2015年生まれの加入量水準速報(2015年12月・第2段階)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、国立研究開発法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年から、その年に生まれた太平洋クロマグロ加入量水準について、モニタリングデータを順次追加しながら、概ね9月(2015年以降は10月)、12月、翌年5月、及び翌年10月頃を目途にした4段階で、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています。今回は、2015年生まれについての第2段階の速報です。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)生まれた個体が成長、生残して新たに漁業の対象に加わること。太平洋クロマグロでは、ふ化後2～3ヶ月、体長20cm程度から漁業の対象となる。

1. 2015年12月時点の推定加入量水準

「2015年の加入量水準は、日本海生まれでは、過去2年を上回る可能性が高い。

南西諸島海域生まれでは、低いものの2014年を上回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付資料を御覧ください。

なお、2015年生まれの次回の速報は来年5月頃を予定しています。

<添付資料>

[太平洋クロマグロ2015年生まれ加入量モニタリング速報\(第2段階 2015年12月\)](#)

2. 参考

平成27年10月28日付けプレスリリース「太平洋クロマグロ2014年及び2015年生まれの加入量水準情報(2015年10月)について

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/151028.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課

担当者: 国際資源班 川端、難波、井ノ口

代表: 03-3502-8111(内線6803)

ダイヤルイン: 03-6744-2380

FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)

国立研究開発法人 水産総合研究センター 国際水産資源研究所 くらまぐろ資源部 島田、大島、境

電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ2015年生まれ 加入量モニタリング速報 (第2段階 2015年12月)

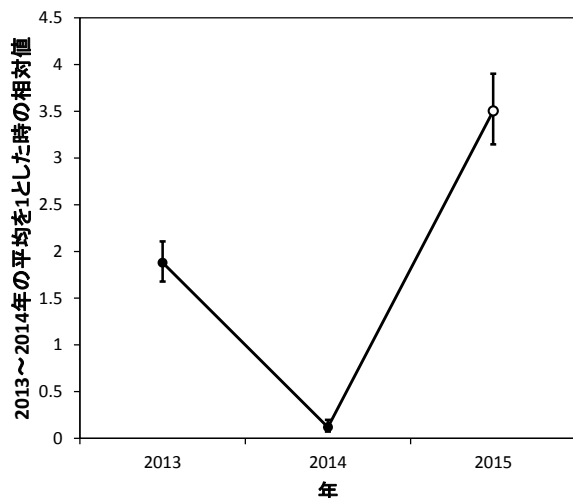
国立研究開発法人

水産総合研究センター 国際水産資源研究所

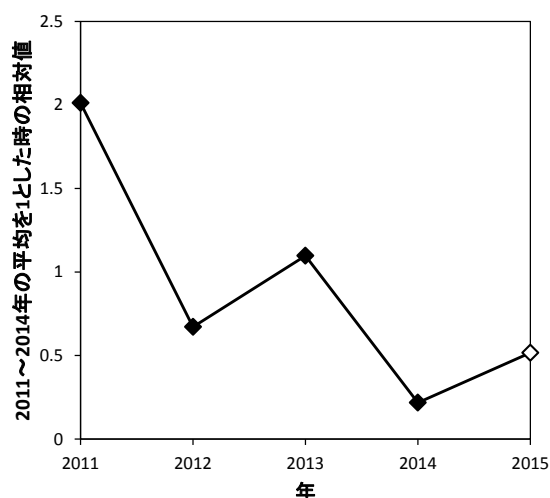
- 島根県隠岐諸島における養殖用種苗を採捕する曳縄モニタリング船^(注1)の9～11月のCPUE(漁獲努力量あたりの漁獲尾数)を加入動向の指標(日本海生まれと推定)として分析。
 - 2015年の曳縄モニタリング船のCPUE(左下図)は、2013～2014年平均の3.5倍、前年の29倍。
- 前回の速報(10月28日公表)に用いた調査^(注2)結果に加え、新たに本年7～9月の西日本における曳縄漁船によって採捕された養殖用種苗の活込尾数を加入動向の指標(南西諸島海域生まれと推定)として分析。
 - 2015年の養殖用種苗の活込尾数(右下図)は、2011～2014年平均の52%、前年の2.4倍。
- 上記から、以下の可能性が高い。
 - 2015年の日本海生まれの加入量水準は、過去2年を上回る。
 - 2015年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、低いものの、2014年を上回る。

注1: 島根県隠岐諸島におけるモニタリング調査は2013年から開始

注2: 太平洋南部(宮崎・高知・和歌山・三重)及び九州西部(長崎)での、養殖用種苗採捕の曳縄漁船のモニタリング調査



左図. 2013～2015年9～11月の島根県隠岐諸島における曳縄モニタリング船CPUEの相対値。
図中の垂線は95%信頼区間。



右図. 2011～2015年7～9月の西日本における曳縄漁船によって採捕された養殖用種苗の活込尾数の相対値。

太平洋クロマグロ2014年及び2015年生まれの加入量水準情報(2015年10月)について

太平洋クロマグロの加入量水準について、2014年生まれの情報(第4段階(最終))及び2015年生まれの速報(第1段階)について公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、国立研究開発法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年から、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、モニタリングデータを順次追加しながら、概ね9月(2015年以降は10月)、12月、翌年5月、及び翌年10月頃を目途にした4段階で、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています(※3)。今回は、2014年生まれについての第4段階の情報及び2015年生まれについての第1段階の速報です。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)生まれた個体が成長、生残して新たに漁業の対象に加わること。太平洋クロマグロでは、ふ化後2～3ヶ月、体長20 cm程度から漁業の対象となる。

(※3)太平洋クロマグロの加入量情報更新の流れについては、添付資料を御覧ください。

1. 2015年10月時点の推定加入量水準

「2014年生まれの加入量水準は、低位の可能性が高い。」

「2015年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、低いものの2014年を上回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付資料を御覧ください。

なお、2015年生まれの次回の速報は本年12月頃を予定しています。

<添付資料>

[・太平洋クロマグロ\(20xx年生まれ\)の加入量情報更新の流れ](#)

[・太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング情報\(第4段階 2015年10月\)](#)

[・太平洋クロマグロ2015年生まれ 加入量モニタリング速報\(第1段階 2015年10月\)](#)

2. 参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

平成26年12月18日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/141218.html>

平成27年5月21日付けプレスリリース「太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/150521.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 川端、難波
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)

国立研究開発法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島、境
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課

担当者: 国際資源班 西田、井須

代表: 03-3502-8111(内線6803)

ダイヤルイン: 03-6744-2380

FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)

独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所

くろまぐろ資源部 島田、大島

電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年3月、翌年10月の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること

1.2014年12月時点の予測

「2014年生まれの加入量水準は、全体として、2012年を下回る低水準である可能性が高い。

(1) 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。

(2) 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は来年3月末を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ加入量モニタリング速報\(2014年12月\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 西田、井須
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)について

太平洋クロマグロ2014年生まれの加入量水準速報(2015年5月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、国立研究開発法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年5月(今回、※3)及び翌年10月の計4回、モニタリングに基づく推定結果を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長、生残して漁業の対象に加わること

(※3)当初、3月の公表を予定していましたが、データの収集に時間を要するため、5月に変更

1.2015年5月時点の推定加入量水準

「2014年生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る低水準である可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付資料を御覧ください。
なお、次回の速報は本年10月を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報\(2015年5月\)\(PDF:45KB\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

平成26年12月18日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について」
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/141218.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 川端、難波
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

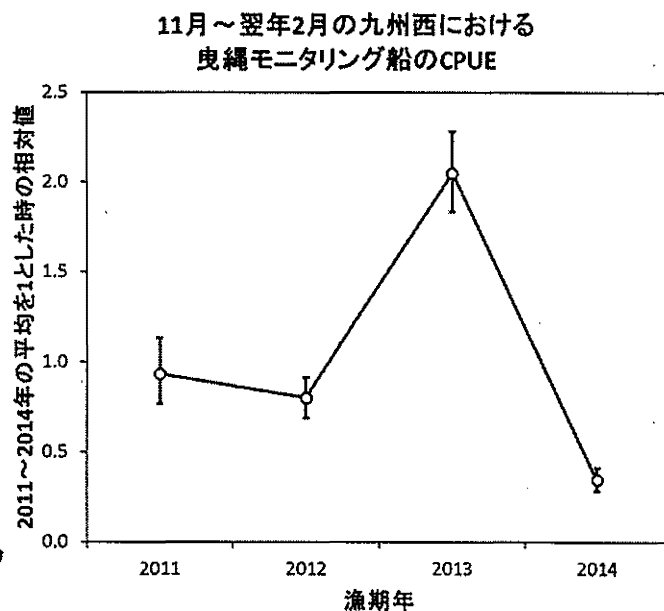
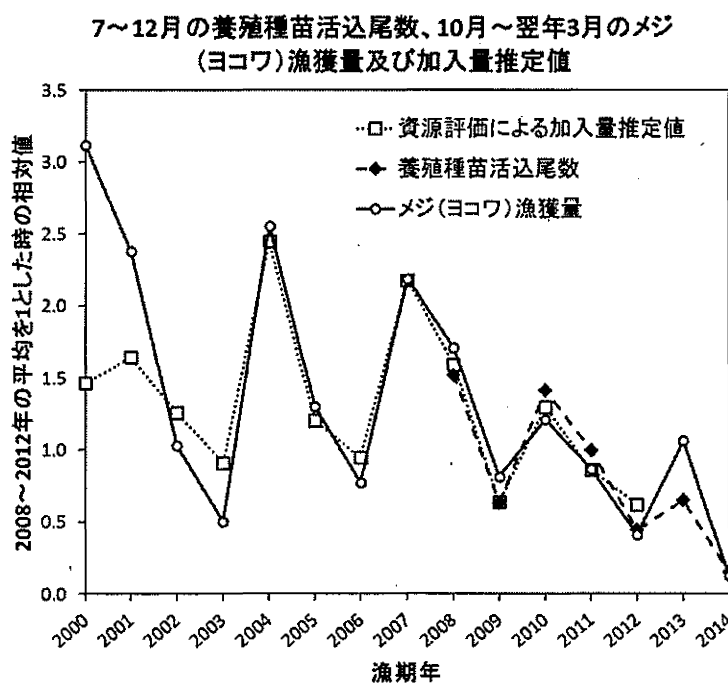
(具体的な内容について)
国立研究開発法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロ2014年生まれ 加入量モニタリング速報(2015年5月)

国立研究開発法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 過去2回の速報(2014年9月30日、同年12月18日公表)の結果に加え、新たに以下を加えて2014年漁期^(注1)の加入状況を推定。
 - 2014年7～12月の西日本で曳縄漁船によって漁獲された養殖種苗の活込尾数
 - 2014年10月～2015年3月の日本全国の曳縄漁船によるメジ(ヨコワ)漁獲量(鮮魚用途の漁獲)
 - 九州西での曳縄モニタリング船の2014年11月～2015年2月における漁獲状況
- ※①～③はいずれも南西諸島海域生まれと日本海生まれの両方を対象とする
- 西日本における養殖種苗活込尾数(左下図)は、2013年の23%、2012年の34%。
- 日本全国のメジ(ヨコワ)漁獲量(左下図)は、2013年の12%、2012年の31%。
- 九州西における曳縄モニタリング船の漁獲努力量当たりの漁獲尾数(CPUE:右下図)は、2013年の17%、2012年の43%。

注1: 漁期は、7月1日～翌年6月30日



※2011年から調査開始。図中の垂線は95%信頼区間

上記から、2014年の加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る低水準である可能性が高い。

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年12月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた太平洋クロマグロの加入量水準について、9月、12月、翌年3月、翌年10月の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること

1.2014年12月時点の予測

「2014年生まれの加入量水準は、全体として、2012年を下回る低水準である可能性が高い。

(1) 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。

(2) 日本海生まれの加入量水準は、2013年を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は来年3月末を予定しています。

<添付資料>

・[太平洋クロマグロ2014年生まれ加入量モニタリング速報\(2014年12月\)](#)

2.参考

平成26年9月30日付けプレスリリース「太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/140930.html>

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者:国際資源班 西田、井須
代表:03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン:03-6744-2380
FAX:03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話:054-336-6032

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032